

2021 きみまちの里フォトコンテスト 入賞作品紹介

※作品名／氏名(住所)

市では二ツ井地域の自然、行事、文化などの魅力をPRするため、きみまちの里フォトコンテストを開催し、8月から1月中旬まで作品を募集しました。このたび審査会を開催し、一般部門最優秀賞1点、優秀賞1点、入賞5点、18歳以下部門最優秀賞1点を決定しました。

入賞作品は、4月中旬までは市役所二ツ井町庁舎1階に、その後、きみまち阪公園の恋文ギャラリーに展示するほか、市ホームページでもご覧いただけます。今年もフォトコンテストの開催を予定しています。詳細が決まり次第、広報のしろなどお知らせします。

問合せ 地域局総務企画課 ☎73・2112

一般部門 【最優秀賞】 黄金の時の中で／佐藤 史(能代市)



コンテスト応募状況

応募数 84点(応募者37人)

審査について 審査は、テーマ性、地域性、メッセージ性、独創性を基準に、きみまち商店会会長高橋大樹さんが審査員長を務め、ほか6人の審査員で行いました。



コンテストの詳細はこちら

一般部門

【優秀賞(1人)】

○螢雪／関口美奈子(能代市)

【入賞(5人)】

○大きな愛に包まれて

／伊藤正人(秋田市)

○霞ただよう

／嶋田洋一(能代市)

○岩若葉／椿田一男(秋田市)

○恋文のまちdeきみまち

／戸松 修(能代市)

○桜のトンネル

／山谷涼太(能代市)

※入賞者の敬称は省略しています。



18歳以下部門

【最優秀賞】 橋の向こうへ／工藤 友絵(北秋田市)

～審査員長講評～

高橋大樹さん(審査員長・きみまち商店会会長)

これまでの応募方法に加え、Eメールでの応募も可としたことから、コロナ禍の折にも、今回のコンテストでは応募者数が増加し、優秀な作品がたくさんありました。また、新設した18歳以下の部門ではコンテストの周知不足だったのか少数の応募となっています。

審査会では新たに審査員として能代市地域おこし協力隊員も加え、地元住民が「見せたい」という視点ばかりではなく、二ツ井地域外の方の目線を加え審査を行っています。今回の入賞作品がコンテストの趣旨である「恋文の

まち ふたつ」を訪れたいと思うきっかけづくりになることを期待しています。

入賞作品についてはそれぞれ甲乙つけがたい作品ばかりでしたが、最優秀賞を受賞した作品は、黄色に色ついた銀杏を眺める子どもの表情が良くとらえられており、構図のバランスも優れていました。秋のきみまち阪の良き一面を多くの皆さんに感じていただける作品であると思っています。

また、18歳以下部門の最優秀賞の作品については、赤や緑の回廊に足を踏み入れたくなる構図であり、一度、この場所を訪れてみたいと思わせる、発信力のある作品でした。